

鰓脚（さいきやく）類

Branchiopoda

脚に鰓(えら)がくっついている仲間である。生きものの世界は凄い発明をするものだとつくづく思うけれど、まさか脚に鰓がくっついているとは、とびつくりする。

だいたいの人知っている“シーモンキー”という愛称のついた生きものはブライン・シュリンプといい、現在では海水魚の稚魚の飼料生物として大量に利用されている。なぜなら、ブライン・シュリンプは塩湖にいる生きものだから。これは昔は、田んぼの中などにもごく普通に見られる生きものだった。“ホウネンエビ”の近縁種で、遊泳肢が体側に11~12対もついている大型の生きもので、体長が二〇ミリくらいになる。

このホウネンエビが透明な二枚貝の中に入っているような不思議な生きもの、“カイエビ”もまた鰓脚目の仲間である。この“カイエビ”などは、初めて見たとき、浦和の秋ヶ瀬公園内の道路脇の小さな水たまりにうじゃうじゃと湧いていた。「わ！なんじゃこりゃあ」とビックリした思い出がある。

他に忘れてならないのが、カブトエビである。これは小さなカブトガニといった格好から、いかにも何億年も前から生きてきたぞ、とっているようだ。これも田んぼに出現する。



カブトエビ

田植えの後の田んぼに多く発生するが、短命で一カ月程で消えてしまう。

『ミジンコ大全』図鑑より